１１８　明治時代　金解禁と世界恐慌(浜口)

浜口雄幸

親から名前のつけかたが生まれたどうい子がっていただく女の思い、幸子と決めるとく男の子はるしまで「雄幸」（男ですのでたの幸子）となったそうです（笑）

意志の強い総理でライオン宰相と呼ばれました。

＜浜口雄幸　内閣＞(民政党)

民政党は、戦前の二大政党の一つ（もう一つは立憲政友会）です。桂太郎が作りかけた立憲同志会→加藤の憲政会→民政党です。

1917 世界大戦時に金本位制停止(寺内)

1919 米英、大戦終結後に金本位制に復帰

金本位制になると、紙幣は金と兌換義務がありますので、政府日銀は金（正貨）の保有高以上に紙幣を発行できません。つまり金本位制になると紙幣発行量に制限がかかるということです。日本も 20 年代には金本位制に復帰したかったのですが、1923 年の震災恐慌、1927 年の金融恐慌と日銀の紙幣を大量発行して凌いできました。だから日本だけ金本位制に復帰できないままでしたのです。

金本位制の頃、1 円硬貨に含む金は 0.75g と貨幣法(1897)で定めていました。1 ドル硬貨には金 1.5ｇなので、100 円＝50 ドルで安定していました。米国人のジョンが 50 ドルで 100 円を入手しました。ところが日銀が紙幣を大量発行したので円の価値が下落し、130 円＝50 ドルになってしまいました。100 円だと約 38.6 ドルです。米国人ジョンの持っている 100 円は約 38.6 ドルの価値しかない。これでは米国人は安心して日本と貿易してくれませんよね。貿易をさかんにするため、浜口内閣は金本位制への復帰を公約に掲げて政権についたのです。

1930 金解禁 (金輸出解禁)断行

・大蔵大臣に前日銀総裁の 井上準之助

・日本商品の国際競争力強化のため、

産業合理化 を推進

いきなり金本位制にはできません。金本位制に復帰すると、円の価値(信用)が高まります。つまり円高になります。円高とは日本商品が割高になるということです。割高になって売れにくくなる。でも、価格が高くても品質が良ければ売れますよね。井上は産業合理化を推進しました。

・金兌換に必要な正貨を蓄積するため

緊縮財政 を採用

緊縮財政だと、デフレ不況になります。モノが売れなくなります。それに産業合理化は、賃下げや人員整理を伴いました。それでも国民は、浜口が「品質が良くなればアメリカが買ってくれるようになります。それまで忍耐です」と国民にラジオで呼びかけるのを信じ、「いま忍耐すれば、明るい未来が開ける」と、賃金が下がっても失業が増えても、歯を食いしばって耐えました。

1929 世界恐慌 (NY のウォール街発)

ところがアメリカ発の世界恐慌が起こっていました。そうなると、やっぱり品質より安さ第一で選びますよね。浜口内閣の安さより品質で勝負という政策は、世界恐慌と相性が良くないんです。アメリカが大不況ですから、割高な日本商品が最大の貿易相手国であるアメリカでまったく売れなくなるという空前の大不況になります。

日本商品が全く売れない空前の大不況

→1930 昭和恐慌

1929 年の輸出量 100
1931 年の輸出量 056
大学は出たけれど…3 人に 1 人

特に高級品である生糸をアメリカは全く買ってくれなくなります。生糸の原料は繭ですので、全国の養蚕農家が大打撃をうけます。労働者が失業してふるさとに帰村すると、都市労働者人口が減るので米も安値になります。

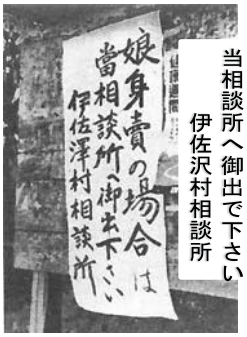
→1931 農業恐慌 (昭和農業恐慌とも)

大根をかじる子ども(1931)

当時の肥料は人糞なので葉っぱや土のついた生の大根をかじることは本来あり得ません。

この写真は食べ物を口にできない子どもが、飢えのあまり、大根をかじっているのです。キョロキョロしているのは、畑から盗んだからでしょう。

下村千秋『飢餓地帯を歩く―東北農村惨状の現状』)「この子供達は雪が降っているというのに、シャツも着ていず、足袋もはいていなかった。」「全村の小学生児童 900 名のうち、400 名までは欠食児童であるというのだ。」
校長先生「今年の恐慌では、もう身につけるものは 1 つも買えません。雪が降りだしてから、ゴム靴ははいてきますが、ゴム靴が破けていて、中が泥だらけが多いです。しかも素足にその泥だらけの靴をはいているのですから、かわいそうでたまらないのです。」村人「娘を持っているものは娘を売ることができるだが、わしは息子しか持たねえから…」



1931 昭和農業恐慌の惨状

欠食児童 、 女子の身売り

娘の身売りは勿論だめなのですが、娘のたたき売りが横行したので、村役場はせめて適正な金銭で…との思いで、村人と娘買い業者の仲介に乗り出しました。

1931 重要産業統制法 施行

不況カルテルを結んで国内の企業同士の過当競争をやめよう。輸出が伸びるまでどの企業も辛抱して生き延びよう。金解禁で輸出は伸びるはずだから。自由経済が政府が介入する統制経済の最初です。

＜浜口雄幸　内閣＞の外交(民政党)

・幣原喜重郎 外務大臣による協調外交

＝幣原外交

1930 日中関税協定調印

蔣介石の国民政府に、関税自主権の回復を認めました。

1930 ロンドン海軍軍縮会議

補助艦の軍縮を目指す会議。

全権 若槻礼次郎 前総理、財部彪海相

海軍　対米７割主張。

結果　対米６割９分７厘

海軍 統帥権干犯問題 と攻撃

海軍軍令部「兵力量の決定は、議会や内閣が関与できない統帥大権(憲法 11 条)であり、浜口内閣は天皇陛下の統帥権を干犯している！」
枢密院「内閣の行為は、統帥権干犯のおそれがある。」
浜口内閣「兵力量の決定は内閣が輔弼する天皇大権である編制大権（憲法 12 条）である。統帥権の干犯には当たらない」と反駁。

→海軍や枢密院の反対を押し切って調印

浜口「殺されてもいい。男子の本懐である。」

1930　浜口雄幸撃たれる(原と同じ東京駅)

即死しなかったが、浜口はじつはある菌の保菌者で、その菌が銃の傷口に化膿したのが原因で半年後に死去。